



“聴くことのできる人を育てる” NPO 法人

# P.L.A ニュース 第64号

パートナーシップ アンド リスニング アソシエーション

2023年 1月 15日発行

発行者 P.L.A 事務所 〒101-0046 千代田区神田多町2丁目7番3号 三好ビル801号室 (月・水・金 11:00~16:00)

Tel&Fax 03-3255-2882 E-mail : info@pla-keicho.org ホームページ:http://pla-keicho.org/



“ 新年おめでとうございます ” コロナ禍も4年目に入り、皆さまには制限が多い中で、いろいろと工夫を重ねておられることと思います。昨年開催した交流会では、多くの工夫が共有され実り多いときを過ごしました。これからも情報交換やサポート体制を整えて、ご一緒に傾聴活動の普及・継続に取り組みたいと思います。本年もよろしくお願ひいたします。 P.L.A 理事長 松尾 隆義

## 第12回傾聴ボランティア交流会報告

オープニングトーク:今後のボランティア活動に向けて (2022.11.14)

鎌馬区 傾聴ボランティア・こだまの会 篠 文子さん

コロナ禍によって活動不能となり、離れていてもできることはないか話合って新たなことに取り組みました。先ず赤い羽根中央共同募金会の「with コロナ草の根応援活動助成」事業の助成金を活用して3つの活動を企画しました。①「おしゃべり電話」(電話傾聴) ②Zoom傾聴 ③慰問絵ハガキの送付。

①は、担当者が電話傾聴の研修を受け、月4回、二人体制で1回につき2時間待機しました。14か月実施した実績は回数が58回、利用者数42件。利用者の嬉しいお声に活動の意義を感じたものの利用者ゼロの日が多くなり、打ち切りを決めました。高齢者には自分で電話することや顔の見えない相手と話すこと、また聴力の低下もあってかハードルが高かったようです。②のZoomは1件の利用もなく、打ち切りました。③の活動はとても好評でいまま継続中です。「P.L.A ニュース第58号」に掲載していただきましたが、送付した絵ハガキは間もなく1,000枚を数えます。絵の描き手はさらに増え、受け取られた方からお礼の電話やお便り、手作り品が届くなど新たなご縁と輪が広がっていて、大変うれしく励みになっています。

定例会は一時中断していましたが、今年2月の「リフレッシュ研修」実施を機に再開しました。傾聴活動が少ないこの時期だからこそ会員自身の研鑽の時間に充てようと、会員を講師に1時間の勉強会を組み込みました。会員に大変好評です。

最近始めたのが「おうち傾聴」(自宅訪問傾聴)です。チラシ配布後すぐに問い合わせがあり、ひとり住まいで話し相手が必要な人の多さをあらためて知りました。

### P.L.A主催 オンライン傾聴講座 開催します (^\_^)

◇ 日時: 2023年2/18(土)~3/18(土) 毎回土曜連続5回 13:00~15:00

◇ 募集人数: 12名 ◇ 参加費: 15,000円

※ 講義と体験学習の講座 ※グループワークでは各グループにファシリテーターがつきます。

※ Zoom 初めの方もOK、事前に接続可能かの確認を行います ※ 詳細はHPをご覧ください!!

## ★ ★ 「コロナ禍での活動」 昭島市 昭島傾聴ボランティアさざなみ 代表 橋本 久貴 さん

コロナ禍での対面傾聴は難しく、それまでメインで活動していた施設での傾聴ができなくなったことは大きい痛手となりました。そして個人宅も高齢者からの依頼が多かったので、ご家族からの反対があり減少。そこで、せめて定例会は継続をすることを決意し、オンライン化に踏み出しました。

まずは会員にスマホに Zoom を取り入れることから始まり、2 回講習を開きました。が、そのころは Wi-Fi 環境が整っておらず大変苦労しました。また、ガラ携帯の方や PC に明るくない方々の対応については、活動班のマンパワーで定例会のレジューメ・議事録を手配りし、運営を共有していきました。

定例会をオンラインで会場と画面からの会員を繋ぎハイブリットで開催し続けたことは、活動内容が会員に伝わりモチベーションが下がらず有意義な結果となりました。また、施設で Zoom 傾聴が可能になり、入所されていらっしゃる方々とも画面越しにお会いでき、双方で感激したとの報告もありました。

今回のコロナ禍での活動で、Zoom に明るい方、施設職員である会員に感謝をするとともに、会員の皆さんの傾聴の基本姿勢である「心に寄り添う」が、活動にも大きく活かされていることを強く強く感じました。



## ★ ★ 豊島区社会福祉事業団 傾聴ボランティアステーション 伊藤 万利子 さん

### ～傾聴ボランティアステーション活動に向けて～コロナ禍での活動～

豊島区の傾聴ボランティアステーションは 5 年前にできました。「傾聴ボランティア養成講座」を修了した方が、ステーションに登録されて傾聴ボランティア活動をしています。

活動としては、高齢者施設内での傾聴、傾聴を希望される地域の高齢者宅を訪問して傾聴、そして「傾聴コーナーひだまり」での傾聴があります。

コロナ禍で施設内での傾聴活動は全く無くなり、個人宅訪問もコロナ下の 3 年は活動がだいぶ停滞してしまいました。やっと再開したところですが、コロナ禍が長引く中で、ボランティアさんやご利用者さん共に身体状況や生活状況や気持ち、モチベーションも随分変わってしまい、傾聴訪問をすんなりと再開できないこともありました。でも、再開してすぐに新規の申し込みがあり、数件の訪問が始まっています。

3 年前始めた「傾聴コーナーひだまり」は、傾聴ボランティアとのおしゃべりを楽しんでもらう場です。利用者さんのお話を個別にお聴きしています。自宅に訪問されるのはちょっとという方や、外に出掛けておしゃべりしたい方に利用いただいています。現在 3 か所の会場で月に計 5 回、開催しています。コロナ下でも緊急事態宣言の時以外はほぼ休まず開いてきました。電話での傾聴をしている会場もあります。内容的にも体操も取り入れたり、利用者やボランティアの得意なことをやってもらって、皆さんがリラックスして和やかに話せるようにしています。

傾聴ボランティアステーションの役割は、ボランティアさんが安心して活動ができるように、ボランティアさんの相談にのり寄り添って支援していくことです。ボランティア自身がリラックスして、お話を聴くのを楽しんで、傾聴を終えて「今日は良かった」と思えることを大事にしていきたいと思っています。

**予告！** 次号ニュースでは、交流会でのご意見・ご感想を紹介します。